

# 杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

## 大学新聞

2011年3月1日発行

- 第5号**
- 座談会・海外留学を語る
  - 教育融合の試み 新しいGeneralist 育成をめざして
  - 文科省採択 学生支援推進プログラム実施状況
  - 学園創立50周年へ 杏林年代記
  - クラブ紹介 少林寺拳法部、吹奏楽団

### 座談会●海外留学を語る

# 世界にチャレンジ、夢の実現を

グローバル化する経済・社会の中で海外留学は、異文化との触れあいによって国際理解を深め、語学力を向上させるなど学生の能力を高めるとともに、国境を超えた人的ネットワークの形成につながるとして推奨されています。

本学から毎年100人前後の学生がアメリカ、イギリス、中国、台湾その他の国で実施する語学研修、インターンシップ、派遣留学、交換留学などの海外研修プログラムに参加しています。一方本学は海外の協定校からの交換・派遣留学を含めて、約230人の留学生を受け入れています。

現在全学をあげて取り組んでいる中期計画の中で、海外への留学や研修に関わる奨学金支給や学納金減免など海外で学ぶ環境の整備をすすめています。

日本では最近、若者の留学離れが続き、文部科学省によると、2008年の日本人留学生は6万6833人で4年連続の減少となっています。少子化と若者の内向き志向に加え、不況や就職活動の早期化等が減少に拍車をかけていると指摘されています。

国際教育の研究者で、学生時代のドイツ留学経験が人生の大きな転換になった外国語学部 坂本ロビン教授と、海外留学経験のある同教授のゼミ生ら3人に留学について語っていただきました。



オックスフォードのクライストチャーチカレッジ。オックスフォード大学の中でも一番大きなカレッジであり、多くの英国の首相はこのカレッジの卒業生である。また、『不思議の国のアリス』の作者ルイス・キャロルはこのカレッジ出身の教授であった。食堂内のステンドグラスにはアリスのイラストが描かれたものもある。毎年夏、杏林大学のオックスフォード英語研修生たちはここを見学に訪れている。



**坂本 ロビン教授**  
(さかもとろびん)

外国語学部英語学科教授。専門は異文化コミュニケーション、英語教育学、国際教育。1985年米国カラマズ大学教育学部卒業、アンティオック大学大学院、ミネソタ大学大学院修了。1985年から岩手県紫波町教育委員会などで英語指導助手。2010年より杏林大学教授。



**橋本 周次郎さん**  
(はしもとしゅうじろう)

1990年12月生まれ。保健学部理学療法学科1年。ケニアで生まれ、2年後、東京へ。小学3年から中学3年までタイのバンコク日本人学校、高校はニュージーランドのクライストチャーチ・ボーイズハイスクールで学ぶ。



**Aさん**

外国語学部英語学科3年。  
(5年後、本人からの申し出により、このようにしております)



**井上 絢介さん**  
(いのうえしゅんすけ)

1988年6月生まれ。外国語学部英語学科3年。沖縄県那覇高校出身。2009年4月から7月まで英国マンチェスター大学、2009年9月から2010年6月まで米国シアトル・セントラル・コミュニティー・カレッジに語学留学。

### 留学の目的 「将来の夢の実現に向けて」

**坂本:** 皆さんそれぞれ留学されていますが、留学の動機は何だったのでしょうか。

**井上:** 私は将来パイロットになりたいと思っています。パイロットには英語が不可欠です。しかも海外を舞台に仕事をします。本気で英語に取り組むためには留学して本場の英語に慣れるのがいいと思い、大都市の大学ではなく、日本人の少ない田舎のシアトル・セントラル・コミュニティー・カレッジに留学しました。

**A:** 私は、ホテル関係の仕事や英語を活かせる仕事に就きたいと思っていたので、単位が認定される留学プログラムの中から、ホテルに関する勉強ができるシンガポールの国際

ツリズムカレッジ (SHATEC) を選びました。このプログラムに参加した先輩の話も聞いて決めました。

**坂本:** 橋本さんは子供のころから海外で生活していましたね。

**橋本:** 小学生の時に父の仕事の関係でタイに転校して中学まではタイの日本人学校に通いました。英語を学びたくて高校はニュージーランドのクライストチャーチ・ボーイズハイスクールに入学しました。僕も英語を勉強するなら日本人の少ない国で、と思いニュージーランドを選びましたが、思ったより日本人は多かった(笑)。私は小さいころ膝の手術をしたのですが、その頃からスポーツクターなど医療に関わる仕事がしたいと思っていました。今は理学療法の勉強をしていますが、このあとイギリスやアメリカなどスポーツが盛んな国でも勉強をしたいし、将来はアジアのどこかで理学療法に関する仕事ができればと思っています。

### 語学の習得 積極的に現地の人と交流しよう

**坂本:** 留学や海外生活の経験はいまの皆さんにとっても大きな影響を与えていると思います。留学は外国語を勉強するにはいい方法だと思いますか。

**井上:** そうですね。ただし、留学前にしっかり語彙力、ライティング、リーディングの力など、日本でできることはしっかり身につけていくべきです。そうでないとせっかく外国へ行っても、周りの人とコミュニケーションがとれず、結局日本人同士で固まってしまうことになります。

**A:** それらの基礎力が一番大事ですね。それから、留学先も極力日本人がいない場所を選ぶことです。

**橋本:** 確かに日本人同士よく集まっていたいました。現地の人と交流しないまま留学を終える日本人をいっぱい見てきました。私はそういうのが

嫌いでしたので現地の人と一緒にいて、自ら日本語を話さない環境を作りました。私の場合はホームステイの環境がよかった。毎日朝から晩まで英語を使う生活をしていました。

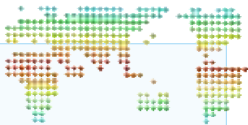
### 授業と学校生活 多様な意見が飛び交う活発な授業

**坂本:** クラスの雰囲気や授業の様子はどうでしたか。

**井上:** ESL (English as a Second Language: 第二言語としての英語) という大学に入るための留学生のコースで英語を集中的に勉強しました。先生たちはユーモアがあり、とても親切でした。授業中は、とにかく活発に発言する学生が多く、私もがんばって発言しました。いろいろな意見が飛び交うなかから答えが導き出されることもよくあり、日本では見られない授業光景でとても楽しかった。

リーディング、ライティングのクラスは約15人、リスニング、グラ





留学ほんでもデータ①

**短期から長期まで  
ニーズに合わせた留学・研修制度**

留学は、杏林大学の授業期間1学期(半年)から1年間にわたり海外の大学やカレッジで学ぶ制度で、留学中に修得した単位の一部は杏林大学で認定される。また、留学中も在学期間に含まれるので、4年間での卒業が可能。  
留学には、交換留学、派遣留学、セメスター留学、私費留学などの留学制度があり、希望する留学プログラムに届けを出した後、審査・承認される。  
春・夏の長期休みを利用して、外国語学部、総合政策学部、保健学部では希望者を対象に海外研修を実施している。また医学部では海外病院実習も行われている。

●**交換留学**

交換留学協定を結んでいる海外協定校への留学制度。期間は1年以内で、留学先への学費納入は免除される。協定校：クライストチャーチポリテクニク工科大学(ニュージーランド)／香港中文大學(香港)／河北大学(中国)／国立政治大学(台湾)／高麗大学(韓国)ほか

●**派遣留学**

派遣留学協定を結んだ海外協定校への留学制度。学費は自己負担。協定校：ウーロンゴン大学(オーストラリア)

●**セメスター留学**

中国語圏協定校への1セメスター(学期)間の留学制度。学費は自己負担。応募資格：渡航時2年以上の外国語学部学生が対象。協定校：北京第二外国語学院(中国)／河北大学(中国)／国立政治大学(台湾)ほか

●**私費留学**

大学・学部が指定または学生が申請し審査・認定された海外の大学、カレッジへの留学制度。期間は3カ月から9カ月程度。学費は自己負担。

留学ほんでもデータ②

**留学支援のための学納金減免・奨学金制度**

杏林大学では、学生の海外研修・留学を推奨し、また経済的負担を軽減するために、平成23年度から学納金減免制度及び海外研修・留学奨学生制度を施行します。

●**留学中の学納金減免制度**

留学先への学費を自己負担する場合、留学期間に相当する学期の杏林大学への学納金は80%を納入減免する。  
\*学費納入が免除される交換留学は除く。

●**杏林大学海外研修・留学奨学生制度**

資格：大学が定める海外研修・留学に参加する者で、成績優秀で勉学意欲に富み、海外研修・留学の成果が期待でき、学部長が推薦する者。  
給付金額：海外研修・留学プログラムの期間・費用等により決定(5~40万円)

●**熊谷奨学生**

資格：外国語学部2・3学年在籍者。成績優秀で勉学意欲に富む者。  
給付金額：1人50万円を上限とし、1年間に総額100万円以内

\*日本学生支援機構、地方自治体・民間団体、外国政府等の留学奨学金情報は国際交流センター又は医学部事務課にお問い合わせください。

マーなど選択のクラスは5人~15人のクラスメイトがいました。リーディングの授業は500ページもあるステファニー・メイヤーの小説『トワイライト』を1学期間で読んだので、読むスピードが上がりました。シンキングの授業は、自分の考えをまとめて皆の前で発表し合うもので、そのために必要な単語などたくさん覚ええました。しかし一番力がついたのはリスニングです。先生の話を中心に集中して聞き、中国人や韓国人などネイティブでない人の英語も聞くので、いろいろな英語を聞きとれるようになりました。バスケのプレー中に急に早口で言葉をかけられたときはわからないこともありましたが(笑)。

学校ではなるべく朝の授業をとるようにして、午後は次の日の勉強とバスケの時間にあてました。1日の勉強時間は宿題や予習含めて4~5時間くらいで、学校のカフェや自宅で勉強していました。

**橋本**：留学生にはESLの授業がありましたが、入学するといきなり現地の高校生と一緒に授業を受けたのでついていくのが大変でした。授業中は発言を求められることが多かったです。生徒も受け答えがはやく、クラスの雰囲気は活発でした。

印象に残っている授業は体育で、カヤック、ゴルフ、山登りをしたり、人体や骨などの仕組みも学びました。どれも興味を持って取り組みました。この高校は演劇やアートにも力を入れていましたね。だから高校留学も面白いと思います。

**A**：私の場合、最初の3ヶ月は基礎英語のクラスでインドネシア、ベトナム、中国からの留学生と一緒に学びました。後半のホテルマネジメントの授業では現地の学生と一緒に、食品の知識を学んだり、プレゼンテーション力を鍛えたり、テーブルクロス交換の仕方を練習しました。マネジメントコースではホテルの裏側までいろいろ学ぶことができました。ホテルといえばフロントなど華やかな部門をイメージしがちで



留学中に史跡や名所を訪れるのは大変いい経験になる。  
写真左上は中国西安の青龍寺にある空海記念碑。空海は804年遣唐使船に乗り、留学僧として唐に渡り研鑽を積んだ。  
左上中央：イギリス ストラットフォード・アポン・エイヴォンにあるウィリアム・シェイクスピアの生家。  
左下：オーストラリア ブリスベン川に架かる橋から市の中心部を眺める。  
右：ラドクリフ・カメラ：オックスフォード大学ボードリアン図書館の一部。1748年完成。現在は閲覧室に利用されている。

ですが、実際は多くの部門があることもわかりました。この研修から、接客などいつも笑顔でないといけないう職種は自分には向いていないと思うようになりました。ホテルの内側は自分のイメージと大きく違っていただけがありました。現在はホテル以外の職種にも興味を持ち、就職活動をしているところです。

**自分の考えをもち  
自分の言葉で伝える**

**坂本**：ほかに印象に残った授業や授業から学んだことはありますか。また、外国の友人と違いを感じることはありましたか。

**井上**：小説を読んで筆者の考えについて意見を出し合う授業があります。自分の意見がみんなの意見とまったく違ったり、自分が考えつかないような意見が出た時などは、もっといろいろなことに興味を持ち、深く考え、視野を広く持つべきだと思いました。いろいろ違う考え方があることを認識させることがこの授業の意図するところだったのだと思います。最初は自分の意見がみんなと合っているのか不安でしたが、多くの異なった意見を聞き、こういう考え方もあるのだということを知ることができました。

**A**：ホテルのフロントを想定したロールプレイングの授業がありました。お客様の呼んだタクシーがなかなか来ないという設定で私はフロント係を担当しました。ロールプレイングのあと先生の講評では、いつも「答えは一つではない」ということを教えられました。それぞれのお客様にあつた対応や話し方が必要だということです。クラスメイトの中には、言い回しが稚拙だと指導される人もいました。言葉づかいや言い回しをたくさん覚えなくてはなりませんでしたが、

**橋本**：日本人は他の人と考えを一緒にしようとするんですね。日本人は自分から進んで発言する人は少ない。ニュージーランドの高校では自分から発言しないと、どんどん置いていかれる。外国では自信を持って自分の意見を話すべきで、そうしないと相手は理解してくれないことがわかりました。

**井上**：自信を持って発言しても、日本では変な目で見られ妙な雰囲気になってしまうことがある。日本は自己主張が少ない国だと思います。

**文化の違いをこえて**

**坂本**：私は岩手県の中学校の英語の教員として赴任しました。英語だけ教えればいい、と思って日本語を勉強してこなかった。ところが誰も英語で話ができないので大変困りました。

みなさん外国語でのコミュニケーションや友だちづきあいはどうでしたか。  
**A**：初めに友だちになったのはベトナム人の女子学生でした。クラスで席が近かったこともあり自然に友だちになれました。

もちろんはじめは言葉で苦労しましたが、わからない単語はメモを取り、帰って辞書を引いて調べました。クラスには各国からの留学生がいていろいろ訛りのある英語を話していましたが、だんだん耳も慣れてきました。ホテルで働くことになれば海外のいろいろな国の旅行者が来るので、こういう雰囲気に慣れておくこともいいと思いました。

**橋本**：ニュージーランドでは高校や大学の留学生には必ず親代わりとなるガーディアン制度があります。ガーディアンは学校生活やホームステイでの生活を全面的に支援してくれます。私の場合は女性で、彼女がステイ先や同じような境遇の留学生を友だちとして紹介してくれました。現地の高校生は体格がよく、自分は小柄なので、小さい頃からやっていたサッカーでアピールしようとして、サッカー部に入りました。3年生の時、僕たちのチームは予選を通過して、全ニュージーランド大会に出場しましたが、この時のメンバーが一番の親友です。

**井上**：最初は英語で話すことにとっても苦労しましたが、クラスメイトと学校が終わった後にコーヒーを飲み

**ただいま留学中!**

**台湾国立政治大学で  
各国の留学生と楽しく勉強しています**

総合政策学部 寺田佑輔(てらだ ゆうすけ)  
2010年8月から2011年8月まで台湾国立政治大学に交換留学

僕はいま、国立政治大学で中国語を勉強しています。台湾に興味を持ったのは2010年3月の訪台時、現地の方の話を聞いてからです。皆さん日本統治時代に日本語教育を受けられた方々で、このとき台湾には深く難しい歴史があることを知りました。帰国後、杏林大学の協定校の国立政治大学への留学を迷わず決めました。  
国立政治大学は台北駅からバスで40分ほど。周辺は学生街で日用品は全て揃います。食堂も多く、マレーシア、韓国、日本の食べ物が食べられます。近くの台北市立動物園には台湾獼猴(たいわんみほー：猿)、藍腹鶇(れんぷーしえん：キジ)、台湾梅花鹿(たいわんめいふあー：鹿)、パンダがいて休日は家族連れでにぎわいます。  
授業は毎日3時間。クラスメイトはイラク、韓国、エルサルバドル、ドイツ、ルーマニア、パラオなどかなり国際色の強いメンバーです。



クラスメイトの家で各国の料理を披露しあいました。僕が持参したたこ焼き器は好評で、蟹かまぼこ、ウィンナー、キムチ、チョコなど入れてみんな面白がってたこ(?)焼きをひっくり返していました。左端が僕。

授業はあたりまえですが中国語で行われるので、僕らもはじめは、かなり苦労しました。弓道部にも入部しています。ここでは台湾に住む日系人の方が指導をしています。  
友だち同士では、英語が上手なくても、中国語の発音が下手でも、誰も気にせず、堂々とコミュニケーションをとって楽しんでいます。週末は仲の良いチェコ、台湾、スペイン、ペルー、韓国の留学生と過ごすことが多く、授業で習った単語や文法を使って会話の練習をしています。時々みんなで烏來温泉に行ったり、大学の施設でサッカーやバスケットをしています。



## 留学ほんでもデータ③

## 過去3年間の海外留学・研修先と参加者(計340人)

- 参加者の多い留学プログラム(人数)
- 1. ビクトリア大学英語研修(20人)
- 2. マンチェスター大学インターンシップ研修(13人)
- 3. ウーロンゴン大学留学(13人)
- 4. ニュージーランドプログラム(12人)
- 4. 北京第二外国語学院セメスター留学交換留学(12人)

## ●参加者の多い短期研修プログラム(人数)

- 1. オックスフォード英語研修(56人)
- 2. シンガポール観光実習(55人)
- 3. 韓国観光実習(40人)
- 4. クイーンズランド大学英語研修(30人)
- 5. パンクーバー研修(25人)

## 留学・研修先ピックアップ

## ●ニュージーランドプログラム

協定校のクライストチャーチポリテクニク工科大学への私費留学。初めの4週間はリスニング、リーディング、スピーキングを中心とした英語学習。5週目からは英語の授業に加えてボランティア・インターンシップコース、ツーリズム入門コースのいずれかを選択して、より実践的な英語力を身につける。

応募資格：外国語学部生

期間：9-12月(3か月)、9-3月(6か月)

## ●ロサンゼルス研修

米国の大学進学を目指す留学生が多く在籍する語学学校FLSインターナショナルでスピーキングを中心に英語コミュニケーションスキルの向上を図る研修。シトラスカレッジ内にあるため大学施設を自由に利用できる。午前中は授業、午後は美術館、UCLA、ハリウッド見学ほか日養養老院でボランティア活動なども行う。

応募資格：総合政策学部の学生対象だが他学部生も参加できる。

実施時期：3月(15日間)

## ●バンクーバー研修

カナダはバンクーバーのランガラカレッジで英語力向上を目指すプログラム。他に、現地の保健・医療施設などを訪問し、カナダの保健・医療・社会福祉環境について理解を深める。

応募資格：保健学部の学生

実施時期：9月(16日間)

## 留学ほんでもデータ④

## 杏林大学で学ぶ海外からの留学生

学部生140人、大学院生90人が学んでいる。

出身国は以下のとおりです。

中国、台湾、韓国、ベトナム、タイ、バングラデシュ、シンガポール、ネパール、マレーシア、インドネシア、スリランカ、フランス(2011年1月現在)

大学3年のときにドイツのボン大学に8ヶ月間の短期留学をしました。今回の座談会でみなさんが話されたことを本当に懐かしうなずきながら聞いておりました。と同時にこんなにもたくましくしっかりとした学生が私たちの周りにいることを誇りに思います。

留学は自分に真剣に向き合ういいチャンスのように思います。何のために、何を求めて、どう生きるかということを考えながら過ごす時間です。よく留学をしてくるとアイデンティティを再認識するといいます。自分の文化を再認識するいい機会です。自分を100%相手に伝えることは自国内でも難しいですが、まして言葉の壁があり文化的背景も違えば本当に努力と工夫が必要です。ただ、その先には人間として理解しあえたという、地球的規模でのコミュニケーションが存在することを忘れてはいけません。

夢は大きく、地球人としてみる目を持つための第一歩として踏み出すステップなのかもしれませんね。



じところで、途中から新しい留学生がきました。ステイ先はいろいろであり、自分が想像していないようなケースもあると思います。学校の友だちはホームステイをしないでアパートで一人暮らしをしている人がほとんどでした。

**橋本**：ステイ先の家族とピクニックに行ったりしました。ステイ先にはタイや韓国の留学生もいて、彼らと話をするのは楽しかった。毎週日曜の朝は家族と教会に行って講話を聴き、讃美歌を歌いました。僕にはこういう習慣がなかったので新鮮でした。食生活の面では、苦手なフィッシュアンドチップスが週3回くらい夕食に出てこれはきつかった。だから、自分で米を炊いて、カレーやコロッケを作ったりしました。

## 留学のすすめ

**坂本**：留学で得たこと、感じたことはありますか。

**井上**：一つのものに対していろいろな考え方や見方があることを学びました。留学してよかったことは積極的に人と接することができるようになったことです。初めての海外留学は、未知の世界で不安がいっぱいありますが、みんな温かい心を持って受け入れてくれる。留学期間を終えても帰国したくないと思うのは、楽しい思い出と、もっと別の世界で新しい勉強ができるという自信がついたこと、そして、そういう成長した自分に気付いたからだと思います。

留学先では、海外の人と積極的にコミュニケーションをとることにチャレンジすべきです。それには外国の人たちといかに仲良く遊びに行けるかがカギだと思う。最後の学期などは友人も増え、毎日のように飲みに行こうとか、週末にパーティやバーベキューに誘われました。当時は留学しているのだから勉強を優先したいという思いが強く、誘いを断ることが多かったが、毎回断らなくてもよかったかなと留学を終えた今は思います。

**A**：留学は苦しく、いろいろな壁にぶつかりましたが、いい経験になりました。英語を習得するためだけでなく、精神的に鍛えるためにもいいと思います。海外には絶対行くべきです。それは留学でなくても海外旅行でもいいのです。言葉が思うように伝わらないとか、コミュニケーションでいろいろな苦労をすると、それはその先の生き方に絶対プラスになると思います。

**橋本**：留学経験は視野を広げます。たとえばニュースだけ見て、こうだと判断してしまうことがあります。海外でいろいろな人に会い、話を聞いたりすれば、それは一つの見方であって、全てを判断する材料でないことがわかります。

留学先は留学生用の授業やシステムがきちんとしているので、安心だし、そこには自分と同じ境遇の人がたくさんいる。彼らとは共通点もたくさんあるだろうし、打ち解けるはずで、行けば何とかあります。

**坂本**：私にも留学の経験があります。



現地の人とさまざまなコミュニケーションをするのも留学生活の楽しみ。地元サッカーチームのメンバーと(左上写真、左手前が橋本さん)。オックスフォードの街を散歩する学生たち(右上)。タイ体験学習、コンケン市内のノンウェン寺院の前(左下)。オレゴン州ポートランドのローズガーデン・アリーナで行われたBlazers対Grizzliesの試合(右下、左側が井上さん)。

に行ったりするうちに仲良くなり、空き時間にバスケをしたりしていました。それからだんだん現地のアメリカ人ともプレーするようになったので、友人がどんどん増えました。私は内気な性格なので打ち解けるまでに時間がかかりましたが、意識的にコミュニケーションをとるようにし、周りの人たちもフレンドリーで明るくてリスペクトをもって接してくれたので、友人関係が悩むことはなく、トラブルなども全然ありませんでした。

**坂本**：ホームステイ先での生活はどうでしたか。私の場合は最初、バスルームのボタンを押せばお湯が出るのが分からず、冷たいシャワーで我慢していた時期がありました(笑)。

**井上**：最初のステイ先はフィリピン

系の家庭でした。私が学校へ行く時間に彼らはすでに仕事に出かけているなど生活のリズムが合わず、コミュニケーションをとる機会がほとんどなかったため、3ヵ月後、学校の近くのアパートで一人暮らしを始めました。友だちと過ごす時間は増えましたが、ホームステイをした方が英語の勉強になると思い、再びホームステイをすることにしました。ホームステイも一人暮らしも両方経験しましたが、アメリカ人とルームシェアをすればもっと良かったのかもしれない。友だちの話聞いてもホームステイの受け入れ先にはかなり当たり外れがあるようですね。

**A**：私はステイ先の家族にマレーシアに遊びに連れて行ってもらったりしました。ステイ先は6ヶ月間同

## 私の留学体験

## スウェーデンに留学して

医学部小児科 西堀由紀野  
(にしほりゆきの)

1994年杏林大学卒業、2005年杏林大学大学院修了。小児科助教。専門は小児腎臓病。



研究室でトリグバーソン教授と。

各国から集まっており、公用語は英語でした。国際色豊かで疎外感全く感じませんでした。多国籍の環境で必要なのは、語学力もさることながら、よい人間関係をもてる人間性だと改めて感じました。そして北欧に滞在したことで、ヨーロッパ人の視線に初めて触れました。ヨーロッパは他国と接した集合体であり、その中で各々の古い歴史を誇り、自国の立場や意識を明確に持っています。アメリカには冷静な視線を送っているのを感じました。留学前は私にとって北欧は地果てのようなイメージでしたが、そこから見る日本こそがヒマラヤの向こう、広大な中国の先、アジアの果ての国でした。

留学で、仕事での新しい知識を得たのはもちろんのことですが、時に一方的になりがちな世界観に、グローバルな視点を持つことを意識するようになったのは、直に触れる経験をしたからこそだと思います。

インターネットの普及で海外の情報が自由に手に入りますが、それは既に人を介した情報に過ぎません。直に触れることができる留学のチャンスがあったら、ぜひトライして欲しいと思います。

私の留学先は、ノーベル生理学医学賞の選考委員会で有名なスウェーデン最大規模の教育研究機関カロリンスカ研究所でした。2006年から2年間、腎臓分野での最先端の研究で知られるカール・トリグバーソン(Karl Tryggvason)教授の研究室で勉強しました。この研究室に当院小児科の楊國昌教授が以前留学されていたことから、私も国際学会でトリグバーソン教授と面識ができ、自然と留学への道が開けました。

医師の場合留学の方法は様々で、所属する医局が海外の施設とコンタクトがあり定期的に医師を派遣している場合は、情報も豊かで留学しやすいのですが、ツテもない場合は困難なのが実情です。世界の名だたる教育研究施設では、共に働くスタッフの人間性を重視しているため、公募制は少なく知人の紹介による形式が多く、チャンスは平等に巡ってきません。留学の意思があれば、留学経験のある先輩の話をよく聞くこと、またその際は、医局の人事も影響するので上司へ希望を伝える時期についても相談しておくことが必要です。

私が所属した研究室のスタッフは世界

# 教育融合の試み



“杏林大学のクオリティを高めるために”をテーマに第2次中期計画を策定して1年が経ちました。実行初年度の22年度は、学生支援、キャンパス整備、高大連携等10の実行部会に分かれて、奨学金制度改正や海外へ留学する学生の学納金減免制度の導入、八王子キャンパスにおける新学習支援施設建設に向けての国内外視察、多摩地域の116の高校に対する高大接続教育の可能性アンケート調査を実施してきました。

中間年となる23年度は、各実行部会の計画が本格的に実行に移されますが、この中から、総合大学の利点を活かした杏林ならではの特色ある教育を検討してきた教育融合部会の取り組みを紹介します。



## 新しいGeneralist育成をめざして

中期計画実行委員会 教育融合実行部会長 **小野田欣也** (総合政策学部教授)

4月より学部連携科目という、教育融合の新しい試みが始まります。この学部連携科目とは、各学部の必修科目で他学部の専任教員が講義を行うものです。具体的には医学部3年次の「医療科学B」、そのほかの学部では1年次に行われる科目で、保健学部では「医学概論I」・「保健学概論I」、総合政策学部では「社会のしくみI」、外国語学部では「コミュニケーション概論」です。

平成23年度(教育融合の初年度)は各学部の要請に基づき、その他の学部からそれぞれ1人の教員が各1回ずつ登壇して、講義を行う形式です。将来的には登壇回数を拡大する予定です。

さて、杏林大学は医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部を有する総合大学ですが、各学部とも比較的学際性の高い学部です。医学部は医療全般をカバーすることはもちろん、保健学部、総合政策学部、外国語学部とも、自然・社会・人文系各分野において総合的かつ学際性の強い傾向

があります。それぞれの学際性に加えて、総合大学たる強みを生かし、他分野の学問を概論的に修得できるように図ることが教育融合のねらいです。例えば医学を志す人が経営やコミュニケーション能力を身につければ、また、会社経営を志す人が医療技術や保健に関する知識を深めれば、人的能力の幅と深みが増すと考えられます。

教育融合の試みの一番のねらいは新しいGeneralistの育成です。4学部はそれぞれの学部理念に基づき、高度に完結したカリキュラム体系を有しています。例えば全ての学部に単位取得の卒業要件があり、新たに必修の1単位を追加することは、既存の卒業要件から1単位を奪うことになるかもしれないからです。一方、完全な選択科目であれば、ある意味卒業に必要な科目としてとらえられかねず、教育融合の果実を実現できません。それぞれ独自の体系を崩すことなく、そこにいかにGeneralistの視座を加味していくのか

### ●教育融合実行部会の結論

#### (1) 学部を超えた学際性の強化

- ・学部連携科目の開講
- ・統一テーマ(例えばアジア、共生、国際協力等)のもと4学部教員のオムニバス講義、他学部履修の推奨等

#### (2) 学生のアイデンティティ育成

大学の理念や歴史を含む自校教育を強化することで学生や卒業生の自尊心を高め、愛校精神の涵養に努める全学的な教養講座を設置

は難しい問題です。「隗より始めよ」のごとく、まずは一部の必修科目からはじめて、成果を検証しつつ、Generalistの育成にむけて進めていきます。

教育融合委員会ではさらに1年程度の時間をかけて、学部連携科目の改良、全学的な教養講座の設置、他学部履修の推奨などを実施していく予定です。

## キャリアサポートセンターの学生支援

### 文部科学省「学生支援推進プログラム」採択

# 「初年次からの就業意識醸成を目指して」の実施状況

平成21年度に採択された3年間にわたる学生支援推進プログラムの活動状況を報告します。

平成22年度は、厳しい就職環境に対応した就職活動支援施策及び初年次からのキャリア形成支援施策を柱として取り組んできました。

平成23年3月卒業学生を対象とした就職活動支援のうち、当大学が主催する合同企業説明会を例年の2回から4回に増やして185社を招いて実施したところ、延べ596名の学生が参加しました。説明会には本学生の採用実績のある企業や地元の企業も多く参加しており、学生が業界と企業を知る機会となっています。この説明会をきっかけにその後の採用試験で多数の学生が内定を得ました。

合同企業説明会の前には集団面接・個人面接の実地訓練を行う就職活動力徹底セミナーを開催しました。自己PRの方法や業界研究・志望動機の事前対策がいかに重要であるかを学生たちは理解できたと思います。

初年次からのキャリア形成支援プログラムの一つとして、総合政策学部の1年生を対象に計6回のキャリア教育プログラムを実施しました。ここでは、

グループごとに制作した「業界マップ」を発表し合うことで職業への関心を高める工夫をしています。学生の夏季休暇に実施するジョブスタディ(企業・団体見学)では職業の現場を見学し、意識の醸成につなげています。

また、大学生活での目標づくりや職業に役立つ講座や資格取得を目標として12講座を開設しました(下枠)。さらに新たな支援施策として、昨年10月「警察官受験サークル」を立ち上げ、警察官の職業を研究したり、受験に向けた各種対策への取り組みを支援しています。今後さらに「就活サークル」も立ち上げ、サークルメンバーにはキャリア目標を持って4年間の学習計画をすすめるための「キャリアポートフォリオ」を使って学生一人ひとりをサポートします。

(キャリアサポートセンター室長 齋藤幸雄)

### ●平成22年度開講講座

基礎能力向上支援講座	資格取得支援講座
・公務員	・福祉住環境コーディネーター
・初めての英会話	・旅行業務取扱管理者(国内・総合)
・秘書検定	・海外ツアーコンダクター
・TOEIC	・ファイナンシャル・プランナー
・パソコン技能検定	・販売士
・日経新聞の読み方	・色彩検定



開催回数を4回に増やして行われた合同企業説明会。9月に八王子キャンパス・ガーデン丘で開催された合同企業説明会で、担当者から直接会社概要や業務内容、採用に関する説明を受ける学生たち。



就職活動力徹底セミナーでは集団面接トレーニングを行い採用試験本番に向けて面接力の向上を目指す(左上)。キャリア教育プログラムでは企業が求める人材像なども体験型授業で学ぶ(右上)。多摩信用金庫立川本店へのジョブスタディでお札の数え方を教わる学生たち(左下)。パソコン検定講座は最も人気のある講座の一つ(右下)。

## 卒業生リレー

アナログ感を大事にして  
歌い届けたいシンガーソングライター  
(株式会社マーニーアーティストエージェンシー)

## ヨツヤ タカヒロ.

(肆矢 崇博：総合政策学部 2001年3月卒)



ヨツヤタカヒロです。歌をつくり、そして歌い届けるシンガーソングライターをしています。曲と誰かが出会ったときに残る感情、シンクロ感、思い出になり何かの小さなきっかけになる。歌にはそんな力があるって信じて歌っています。

大学卒業後、一般企業に就職をした僕は3年半会社員をやりながら音楽をあきらめられないそんな日々でした。自分の人生ですから、やらないで後悔するなら失敗してもいいという思いで会社をやめ、プロを目指して本格的に活動したのは27歳の頃。出会いに恵まれて翌年にCDを発売でき、現在までに2枚のアルバムをリリースできました。

昨年は地元である愛知県東海市の40周年記念ソング「アルバムの君」を作詞作曲させてもらい、「ふるさと大使」にも任命され、この曲を全国各地で歌い、全国で口ずさまれることを目標に頑張っています。

まだまだ目標地点まで到達できていませんが、あの時決断できたことで音楽人としての今があるんだって日々思います。ネバーギブアップです。

ライブ活動は、都内を中心に各地方でのライブを含め、年間50本ほど行っています。大学時代の先生や先輩方もライブへ遊びに来てくれたり後輩も顔を出してくれます。大学時代のつながりは今もとっても大切です。自分らしさを見つけた場所なので。

僕が、音楽を作る上で心がけることは「アナログ感」です。時代はデジタルになり簡素化される様々なこと、表現も同様に視覚優先の時代です。でも人の心自体はなんにも変わってないはず。言葉の温度、出会い、語らうことで生きてくことは変わらない。もはや懐かしいくらいの感覚を大事に歌い届け続けたいなあって思っています。だれかの小さなきっかけになれる音楽を。



## ヨツヤタカヒロ、ライブ情報

## 一踏み出す勇気が未来を変えるー

Acoustic Festival in アイムホール

日程：2011年3月6日(日)

時間：開場 14:30 / 開演 15:00

会場：立川女性総合センター アイムホール

出演：unnatural / おつかれーず / 畠永裕輔 / Blue Trike /

ヨツヤタカヒロ / リトルタートルズ (50音順)

料金：2000円

主催：Acoustic Festival 実行委員会

協力：立川文化芸術のまちづくり事業 /

FMたちかわ 84.4MHz ※全席自由

## 一 Medias Music Fes vol.05 — Sweet Home Party

日程 2011年3月20日(日)

時間 OPEN 16:00 START 17:00

会場 東海市勤労センター

出演 ヨツヤタカヒロ、Guest 村屋光二 (redballoon)

料金 入場無料 (事前応募制)

主催 知多メディアネットワーク株式会社 ※全席自由

## 世界中に教え子を

浙江櫻花外語専修学校 (中国浙江省杭州市)  
日本語教師

## 難波 未希

(なんば みき：外国語学部 2009年3月卒)

私は2009年の3月に卒業し、すぐ中国浙江省杭州市へ来ました。今、櫻花外語専修学校で日本語教師として働いています。私が勤めている学校は、日本語学校をはじめ、英語塾、小中学生向けの学習塾も併設しており、中国人はもちろん、日本人、欧米人などいる国際色豊かな学校です。現在日本人教師は12名おり、中国人教師と協力して日本語を教えています。

今、私が任されている仕事は、初～中級クラスでの文法・会話・聴解・作文授業、中～上級クラスでの読解授業、アドバイザーとして新任教師への指導などで、時には近郊の大学へ宣伝活動に行くこともあります。理想と現実の違い、「学生に日本語を教える」以外の仕事は思っていたより多いですね。

学習者の目的は、「日本へ留学したい」、「ドラマやアニメが好き」、「仕事のために役立てたい」など様々で、企業や高校へ出張して教えることもあり

ます。この2年間担当したクラスだけでも100人以上の学生を日本へ送り出して来ました。

ある日、高校から帰る途中のバスの中で「日本の方ですか？ 難波さんじゃありませんか？」と声を掛けられました。びっくりして、顔を見ると、彼女は私が大学3年生時に、大学の協定校である浙江工業大学で教育実習をしたときに初めて日本語を教えた学生の1人でした。その時は日本語だけではなく、折り紙を教えたり、浴衣を着せてあげたりしました。彼女は「難波さんたちとの交流がきっかけで日本へ行くことを決めたんです」と言ってくれました。私の日本語教師人生はこの時から始まっていたのです。その2週間後、彼女は大阪へ旅立ちました。

私にとって中国はスタート地点です。将来、世界中に教え子を作ることが私の夢です。



サマークラス終了時に生徒と。前列中央浴衣を着ているのが私。サマークラスは小学生からから大学生までを対象に、夏休み期間中に開講します。講義はテキストに沿って行うものから、ワードの日本語入力などを身につけるコンピュータ授業もあります。

## 学園創立 50周年へ

クロニクル  
杏林年代記

杏林学園は1966年に開学し、2016年(平成28年)に50周年を迎えます。そこで、これから毎号「杏林年代記」と題するコーナーを設け、懐かしい写真とともに、先人達の業績を振り返ります。第1回は平成22年12月に解体工事が終わり、新たに病棟の建設が始まった旧第3病棟です。



**学** 校法人杏林学園は1953年に開院した三鷹新川病院を母体とし、1966年杏林短期大学を設立、1970年に杏林大学医学部が開設されたのを機に、病院がそっくり移管され、その歩みをはじめました。左写真は杏林学園の前身・三鷹新川総合病院。

**旧** 第3病棟は、昭和46年竣工の第1病棟、旧三鷹新川総合病院の外来及び病棟を取り込む形となった第2病棟につづいて、地上5階・地下2階、延べ面積15,485㎡の建物として、昭和48年1月10日に竣工されました。

建設された当初は「診療センター」という名称で運用がスタートし、地下に中央手術部や栄養科といった病院として重要な機能を担う施設が置かれ、また入院病棟としては形成外科や脳神経外科などの病室が稼働していました。

その後、昭和53年に増築部分が完成した際は、1階に理学療法室(リハビリテーション)が設けられ、また昭和54年には救命救急センターが開設されるなど、医療の現場として様々な場面で舞台となってきました。

2階には面会ロビーがあり、ここで看護学生がクリスマスコンサートを行ったり、一角には理容室(バーバーアズ)の店舗も構えるなど、患者さんがお見舞いのご家族と過ごしたりするほか、治療を受ける合間にほっと一息つく場所として多くの人に利用されていました。

また昭和50年頃には、地下に設置されていた市水槽から浸水し、地下2階の医療材料が保管されていた倉庫が水浸しになってしまうというアクシデントが起きたこともありました。

この旧第3病棟の跡地には、平成24年9月頃完成予定の地上10階建て、屋上にはヘリポートを配備した最新の病棟がお目見えすることになっています。



昭和40年代後半の建設工事中の旧第3病棟(左)。昭和54年開設当時の救命救急センター(中央)。平成2年頃の面会ロビー(右)。3病棟と他病棟の間の連絡通路は冬場は特に寒く、職員の間ではシベリア街道とも呼ばれた。

## 在学生リレー エンジョイ☆杏林 Life

ミッシェル  
拙者は、密士得流で御座る!

## ゴディムス・ミッシェル・ロランド

(外国語学部1年)



なぜ仏蘭西から遠い日本に来たかという、ある一つの夢を叶える為です。その夢は日本で、精力的で良い通訳者になり、剣道などの武術や着物や茶道などの伝統、美しい自然や田舎を紹介したいと思っています。子供の頃読んだ本の挿絵に描かれていた武将の職の漢字を見てとても綺麗だと思ったのが日本に興味をもったきっかけです。日本の歴史や習慣などをもっと知りたくて、日本へ行くことにずっと憧れていました。日本に来たのは2年前。これが夢の始まりでした。

けれども実際は日本と仏蘭西では大きな違いがあり、戸惑いと苦しさの連続でした。始めは悪夢のようでした。でも、日本に来たからには、絶対に通訳者になるという強い気持ちがあったので、一生懸命日本語を身につける努力をしました。西洋人にとって漢字は読み方がいっぱいあり大変です。でも最近ではわからない単語も漢字のおかげで意味を理解できるようになり、とても便利だと感じます。日本に来た時は日本語がひと言も話せず、まるで「迷子」のようでしたが、勉強を続けて、いまでは日本語を上手に話せるようになってきたと思います。

ずっとフランスの田舎に住んでいたため、初めて日本に来たときは、アマゾンの先住民がいきなり新宿に来たような感じ。趣味はインラインスケートとホッケー、絵を描くことや武術。フランスではモデルやソーシャルワーカーとしても働いていました。

杏林大学には2010年秋に入学しました。自然が大好きな私にとって大学の環境はとても気に入っています。ただ、八王子に来たばかりなので、近所や大学に友達がまだあまりいなくて、独りぼっちのため寂しく感じることも多いです。僕は山に登ったり、森を散歩したり、そこで雲や星を眺めたり、自然を楽しむことが大好きです。遠慮がちで人見知りでもあります。皆さんよろしくお願ひ致します。

将来は、元気な通訳者として、日本で働くことを思い描いています。ぜひ日本の綺麗な田舎で暮らしたいと思っています。そして、素敵な日本人と結婚が出来て、自分の家族もここで出来たら、子供の頃の夢を完璧に叶えたこととなります。

その為の道はまだ長くて、困難が沢山ありそうですけれども、叶える為に侍のように諦めずに、最後まで戦うつもりです!

# 学部・大学院トピックス

## 医学部

「学生諸君、いま病理がおもしろいぞ！」

病理学の国際誌に論文発表  
医学部4年の宇野枢さん、桑原晴樹さん

日本病理学会では、本学病理学教室の坂本穆彦教授が会長をつとめた第95回総会(2006年、東京)において、新企画として学生ポスター発表を立ち上げました。その後、毎年、一人でも多くの学生諸君に病理学の魅力を知ってもらいたいと参加を呼びかけ、本学からも情熱あふれる医学部3年生(発表時は4年生)が、優れた研究の成果を発表してきました。

昨年4月に行われた第99回総会(2010年、東京)では、宇野枢さん、桑原晴樹さんが、子宮頸部や皮膚におけるLAT-1蛋白の発現性についてポスター発表を行いました。この研究成果は英語論文にまとめられ、病理学の国際誌 Human Pathology (impact factor 2009, 2.96) に受理されました。過去にも、杏林大学の医学生が日本病理学会において優れたポスター発表を行い、同内容を英文誌に発表しています(Sato I, Kawakami T, et al. Pathol Res Pract 2008, Tsuchida R, Kasahara N, et al. Pathol Res Pract 2010)。

来たる第100回の記念総会では、現在医学部3年の田中界さん、武川裕之さんが発表予



論文発表を喜ぶ宇野さん(中央)、病理学教室にて坂本教授(右)、原講師(左)と。

定です。

病理学は、基礎と臨床の架け橋として重要な役割を担っています。近年の分子レベルでの研究進歩は目覚ましく、その研究成果に基づき疾患の理解や分類も変遷しています。

病理学教室では、将来病理医を目指す方は勿論、他科を志望する方や、「おもしろそうだな？」と興味をもたれる方々に広く門戸を開き、自由に勉学に励む場を提供しています。学生諸君、来たれ病理学教室へ！  
(病理学講師 原由紀子)

## 付属病院

### 臨床研修と研修医マッチング

2004年度以降に医師免許を取得した人は、2年間の臨床研修を受けることが臨床医として診療をしていくために必修となりました。

厚生労働省が決めた条件と到達目標に基づいて、各研修病院が工夫をこらした研修プログラムを提供しています。

研修希望者と研修病院の組み合わせを決めるのがマッチングです。これは研修希望者と研修病院の双方の希望を最大限に叶えるような方法(一種の「お見合い」アルゴリズム)に基づいて行われます。このシステムにより、約95%の研修希望者が、第1から第3希望までの研修病院とマッチしています。

杏林大学医学部付属病院の臨床研修は、学生・研修医・指導医をはじめ、多くの関係者の意見を取り入れながら、少しずつ進化してきました。多くの大学病院が定員を充足することができなくなっているなかで、平成21年度のマッチングでは初めてフルマッチを達成し、平成22年度もフルマッチに近い(1名分のみ空席)結果を得ることができました。これは、当院の診



療レベルと研修の質が認められてきた結果と思われます。良き医師の育成を目標とする教育機関として、今後もよりよい研修を実現していきたいと思えます。

当院の臨床研修に関して詳しく知りたい方は、病院ホームページを御覧下さい。

研修医にとっての一番の教師は患者さんです。医師として未熟な研修医に診てもらうことに抵抗を感じられるかもしれませんが、必ず指導医がチェックをしています。また、指導医も研修医の良き手本になるべく日々研鑽を積んでいます。良い研修病院は患者さんにとっても良い病院とお考えいただき、医師育成に御協力を賜りますようお願い致します。

(医学部付属病院卒後教育委員会委員長 赤木美智男)

## 保健学部

### “Teacher of the year 2009”4名の教員を表彰

授業の質を高め、学生の授業の理解度や意欲を把握したり、教員の教育力を向上させる手段の一つとして、学生による授業評価を実施しています。評価は授業のわかりやすさ、教員の熱意、授業の満足度など12項目を5段階評価するもので、教員はここから得た教訓を次の授業に活かします。

このたび当学部では2009年度授業評価が高かった4名の教員を“Teacher of the year 2009”として昨年6月と12月の2回に分けて表彰しました。

《受賞者メッセージ》

#### 田口晴彦 臨床検査技術学科教授 / 免疫学

賞をいただき教員冥利に尽きる思いです。最近、学生教育に従事しながら残念に思うことがあります。それは、「話題に知的刺激を含ませ、議論をおもしろくする能力に乏しい学生が多い」ということです。これは、教員側にも責任があるのだと思います。講義は専門的な知識の伝達に終始することなく、「あの科目は興味がわく」と言ってくれるように工夫していきたいと考えています。

#### 長谷川めぐみ 健康福祉学科准教授 / 公衆衛生学

受賞の要因は①学生が「専門と離れて」気楽に聴ける講義であること、②オムニバス形式の講義ではないこと、ではないかと思えます。今後ますます精進する気持ちを新たにしました。



#### 松村桜子 看護学科准教授 / 病態治療論I

講義では単に知識を伝えるだけでなく、学生が「自分で考えてみる」というプロセスを大事にしています。今後も学生の理解が深まる講義を考えていきたいと思っています。

#### 山本真智子 看護学科助教 / 医学英語

この賞を頂いたのは、決して私一人の力だけではなく、至らぬ私を支えて下さった方々、教務課の方、学生達のお陰だと思っています。今後も今までの活動を活かして、精一杯努力し、目標達成に繋げて行きたいと思っています。Again, I feel very honored that I was able to win such a big award. Thank you very much for all of them!!

### 第38回杏祭看護学科実行委員会からひと言

初めての「杏祭」参加に期待の膨らむ私たちでしたが、当日の10月30日は、関東地方に台風が接近したことから、来場者の安全を考慮して実行委員会はスケジュール変更を決断しました。それでも看護・医学教育研究棟の各教室をフル活用して保健学部大瀧学部長の講演会を開催したり、研究発表や看護への理解を深めていただくための体験をしていただきました。また、松田記念館周辺で部活動団体を中心に模擬店を出店し皆さま楽しんでいただきました。

今年もさらに「杏祭」を盛り上げたいと思っていますので楽しみにしてください。

(実行委員長 保健学部看護学科2年 染谷将伸)

### 看護学科が“伝統ある杏祭”に参加

保健学部開設以前の短期大学の時代、三鷹キャンパスでは毎年11月に学園祭“杏祭”が、短期大学と医学部合同で開催されていました。

その後、短期大学は保健学部として八王子キャンパスに移転し、新たな地で学園祭“杏園祭”を開催することになりました。現在、八王子キャンパスで保健学部、総合政策学部、外国語学部の学生が2日間にわたり開催している“杏園祭”の始まりです。

“杏祭”は医学部と看護専門学校の学生の手で継続開催されてきましたが、看護学科が三鷹校舎に移転して2年が過ぎた昨年10月、保健学部看護学科はこの伝統ある“杏祭”に参加することになりました。



### キャンパス情報⑤

## サブウェイ八王子キャンパス店

サブウェイ八王子キャンパス店は2010年9月に学生ホールラウンジ緑の一角にオープンしました。

八王子キャンパスには2つの学生食堂、学内コンビニK-Shopなどがありますが、サブウェイが登場したことで学生も教職員もバラエティ豊かな食を楽しむことができるようになりました。

サブウェイ八王子キャンパス店にはいま15人の学生がアルバイト登録をしていて、常に5、6人のスタッフが店頭で皆さんに対応しています。その中の、現在外国語学部4年生で4月から正社員として働く副店長の内田知里さんに話を伺いました。



「2か月に1度実施する“サブウェイサンド全品320円均一セール”の時は行列ができて迷惑をかけることもあります。スタッフもフル回転で頑張っています。こういう機会には1人でも多くの学生や教職員の方に食べていただきたいです」と内田さん(左から2人目)

学生の内田さんにとってこの仕事はどうか？

内田：制服を着ると気分も変わります。挨拶だけで買ってくれない友達がいると「もう〜っ！」と思いますが、ダンス部の仲間たちは練習の合間に買ってくれます。夕方になるとみんなお腹が空くんです(笑)。最近をよくいらしてくださる先生や学生の好みやトップページのリクエストにスムーズに対応できるようになりました。

人気のメニューやおススメは？

内田：女子学生にはえびアボカドやBLTなど、男子学生にはボリュームのあるローストビーフやオープンチキンカツなどが人気です。10時30分までの“朝専用サンド”はレギュラーサイズより少し小さめですが、たまご&チーズならドリンク付きで300円とお得です。学生の皆さん、朝ご飯は大事ですよ(笑)。

営業時間 平日 8:30 - 18:00  
土曜 8:30 - 16:00

学生の利用状況は？

内田：1日に何度もいらして下さる学生もいて嬉しいです。やはり昼時が一番混みます。小腹がすいたときはポテトやサブチキンなどのサイドメニューがありますし、授業の合間にカフェ感覚で利用する学生もいます。

最後にひと言

内田：利用者の声も聞きながらよりよいサービスでおいしいサンドイッチを提供したいと思っています。卒業しても杏林にお世話になります。後輩たちの成長を楽しみに見守りたいと思います。



## 総合政策学部

### 新たにロサンゼルス研修がスタート

3月13日から、総合政策学部の希望者を対象にアメリカ研修が行われます。これまでも、夏休みを利用した研修はありましたが、春休みの研修は初めて。

ロサンゼルスで研修を行うのも新しい試みです。

15日間の研修では、ロサンゼルス郊外の大学キャンパスで英語を学ぶだけでなく、ホストファミリーとの交流や市内見学・美術館見学、また、ショッピングなどを通じて、現地の文化や社会を体験します。

予定されているプログラムの一つ、日系老人福祉施設でのボランティア活動では、

日米の医療福祉の違いを理解し、アメリカ日系社会の歴史や文化を実感することができます。また、オールドタウン、学生街、ハリウッドなどを見学し、それぞれの街に関わる法律や行政、経済、環境について考察するのも良いかもしれません。免税店でのショッピングは、その経営戦略を読み取り、税制や会計を理解する絶好の機会です。多彩な分野を学ぶ総合政策学部の学生が、アメリカ研修で新たな知見を得、成長することを期待します。

引率の木暮健太郎講師から言葉が通じなくても、相手に自分の意志を伝えるという経験が重要だと思います。アメリカを代表する大都市ロサンゼルスでたくさん刺激を受けてきて欲しいと願っています。

### 南極観測隊長が杏園祭で講演

2010年度杏園祭において、総合政策学部ゼミナール連絡会(ゼミ連)が講演会を主催しました。ゼミ連は、総合政策学部のゼミ間の交流や情報共有を目的とする学生組織であり、杏園祭では20年以上も前から講演会を企画・運営しています。

今年度は、第51次日本南極地域観測隊の隊長を務められた本吉洋一氏を講師にお迎えし、南極観測隊の活動や美しいオーロラの映像を交え、気候変動から地球の歴史、そして宇宙にいたる壮大なテーマについてお話いただきました。

本吉氏の講演会につづき、7つのゼミナールが南極に関する研究発表を行いました。北島ゼミ(公衆衛生学)と野山ゼミ(保健学)は南極での食事や健康管理



会場の様子。右手奥が本吉氏。同氏は、これまで6度の南極観測隊任務に就き、現在は国立極地研究所教授として地質学や岩石学などを研究している。

を、木村ゼミ(経営学)は南極観測隊における組織とリーダーシップを、斉藤崇ゼミ(環境経済学)は南極の環境問題をとりました。特に南極条約や国際法には関心が集中し、渡辺ゼミ(国際政治学)はその歴史的経緯に、久野ゼミ(開発経済学)は経済的必要性に、岩隈ゼミ(法律学)は領土概念に焦点を当てました。

本吉氏の講演と各ゼミの専門を活かした研究発表により、講演会は例年以上に意義深いものとなりました。

### 青木健先生追悼号発行

2009年11月に急逝された青木先生を偲び一周忌となる2010年11月、『杏林社会科学研究』青木健博士追悼号(第26巻第2・3合併号)が刊行されました。先生は、JETROや国際貿易投資研究所で活躍されたのち、1993年4月から2007年3月まで杏林大学大学院国際協力研究科および社会科学部(現総合政策学部)の教授として、また、2007年4月からは同研究科客員教授として、とくにアジア地域における開発経済学の研究と教育に携わりました。2007年には独立行政法人平和祈念事業特別基金の理事長に就任し、恩給欠格者・戦後強制抑留者・引揚者等に関わる各種事業の推進に尽力されました。

### 地域交流 杏林大学の地域交流活動

## 「地域に根ざした大学」をめざして

### トピックス●第4回八王子まちづくりフォーラムを開催

「魅力ある観光地へのまちづくりとひとづくり」をテーマに第4回八王子まちづくりフォーラムを、昨年11月6日(土)午後、八王子市学園都市センターで開催しました。今年度は、本学に観光交流文化学科が設置されたこともあり八王子市の観光の将来に目を向けた内容で実施しました。会場には八王子の観光に関心のある市民や学生約200人が参加しました。

フォーラムでは、まず本学跡見裕学長と黒須隆一八王子市長が挨拶をし、杏林大学と八王子市が双方の資源、機能を用いて多面的に連携をしていくことを確認しました。続いて、由布院温泉観光協会会長の桑野和泉氏が「まちづくりとホスピタリティ」と題して基調講演を行いました。由布院温泉の概要、滞在型保養温泉地としてのさまざまな事業への取り組みや、景観計画についてルールを成文化して統一的な環境づくりを進めていることなど、観光地としてのまちづくりの取り組みを紹介しました。



左から由布院温泉観光協会会長 桑野和泉氏、オフィスヴァルトサービスコンサルタント 福島規子氏、八王子市産業振興部観光課長 西田隆氏、東日本旅客鉄道八王子支社営業部長 藤原義雄氏

基調講演のあと、本学外国語学部観光交流文化学科の岩崎公生教授がコーディネーターを務め、4人のパネリストと「魅力ある観光地へのまちづくりとひとづくり」をテーマにパネルディスカッションを行いました。会場の参加者とも意見交換を行い、観光地としての八王子市に大学や市民がどう関わることができるのかを考えることができました。(地域交流委員会)

- 八王子まちづくりフォーラム
- 第1回(2007.11.10) まちづくりと大学の役割
- 第2回(2008.11.8) 商店街の活性化
- 第3回(2009.11.7) 地域で子育てを考えよう

## 外国語学部

### ゼミ活動の集大成 「社会人基礎力育成グランプリ 2011」予選大会出場

英語学科の遠山ゼミは、2010年11月29日に行われた経済産業省主催の「社会人基礎力育成グランプリ2011」関東地区予選大会に出場しました。

このグランプリは、大学の専門知識の学習を応用し、現代に相応しいビジネスマインドを養成する「プロジェクト形式の課題解決型学習(PBL)」の取り組みの成果報告を行うもので、本学含め29校が参加しました。

国際コミュニケーション論と実用英語習得を研究テーマとする私たちは、「国際社会と地域社会の橋渡し」を目標に八王子市役所との官学連携

で取り組んできた「親子異文化体験」と「伝統文化ふれあい事業」という2つの社会的実践活動について発表しました。

全国大会進出は果たせませんでした。「地区奨励賞」を頂きました。これまでのゼミ活動を振り返り、自分たちの成長の過程を「社会人基礎力」という観点から捉え直したことで、「チームで働く」ことの意義を再認識し、成長した自分を実感し、自分の強みや改善すべき点がわかりました。(遠山ゼミ3年 今村彩乃・小森菜津美)

### ●ゼミブログ From Hachioji to the World: "Think Globally, Act Locally" で伝統文化を世界へ発信

八王子車人形古柳座など八王子の伝統芸能を実際に体験して、自分たちの言葉でその魅力を伝えていきます。



### ●親子異文化体験



八王子市とその近隣に住む親子を対象に海外の伝統文化を紹介する体験型のイベント。昨年はイギリス、ドイツ、デンマークなど6カ国の食、遊び、踊り、昔話、民族衣装を紹介し、異文化に興味を持っていただきました。

### ようこそ外国語学部へ フレッシュャーズキャンプ



外国語学部では、4月9日(土)～10日(日)に新1年生全員を対象に河口湖周辺で1泊2日の「外国語学部 フレッシュャーズキャンプ2011」を実施します。

チームビルドやプロジェクトワークを通して1年生が早期に大学の環境に慣れ、新たな人間関係づくりが円滑に進められるよう、このキャンプには教員のほかに初めてピアメンター(サポートする上級生)が約30名参加します。

### トピックス●「第1回羽村市・杏林大学連携協議会」を開催

本学は羽村市平日夜間急患センターへの医師派遣、ゆとろぎ文化講演会への講師派遣を行うなど、羽村市と連携を進めてきました。昨年6月にはこれまでの連携事業を拡充するために連携協定を結びました。

これを踏まえ11月16日、羽村市役所で「第1回羽村市・杏林大学連携協議会」を開催しました。

協議会では、連携協議会の名称、構成員、規約、連携の方法等を協議しました。また、今後の新たな連携事業として、羽村市からは各種講演

会などへの講師(教員)派遣や学生ボランティア派遣など19件が、本学からはインターンシップ受け入れや八ヶ岳・清里の保養施設の利用など10件の事案がそれぞれ提案されました。

これらの提案は、次の協議会で連携事業計画を策定し、実施に移していくことにしています。

このように本学と羽村市は、双方が保有する人的・社会的資源を活用し合うことにより双方の質を高め合い、地域の発展に尽くしていきます。



羽村市生涯学習センターゆとろぎ(左)では医療、健康、文化などをテーマに毎年本学教員による講演会を開催しています。本学はこれからも八王子(右)、三鷹両キャンパスをあげて羽村市との連携事業を進めていきます。



### club クラブ・サークル紹介

八王子・三鷹両キャンパスではあわせて87のクラブとサークルが活動しています。今回は、2つのキャンパスで活動する少林寺拳法部と、学内外のさまざまなイベントで演奏を披露する吹奏楽団を紹介します。

#### ● 少林寺拳法部

創部33年、毎年恒例の春夏合宿で技を磨く

少林寺拳法部は、今年創部33年を迎えます。現在、医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の51人が、上野文英監督、顧問の医学部 松村護児教授のもと活動しています。

部の最大の特徴は、部員みんな仲が良いことです。

学部の垣根を越え、先輩と後輩と一緒に練習し、部活動以外でも仲がよくアットホームな部活です。普段は三鷹と八王子キャンパスでそれぞれ活動していますが、月に1度三鷹キャンパスの柔剣道場で合同練習をし、毎年春と夏に合宿をするなど交流も盛んです。

練習では、大会の競技種目を意識して、「運用法」という防具をつけた実戦形式の練習や技術練習の基本となる演武などを行っています。部員はみな大会出場に積極的で、なかでも運用法の部は出場希望者が多く、部内で選考会を行うほどです。

昨年10月、関東学生医歯薬ブロック



大会が日本大学歯学部で行われ、10大学166名の拳士が技を競い合いました。本学は男子総合2位、個人でも多くの部門に入賞しました。11月には日本武道館で行われた第44回全日本学生大会に出場しました。本戦に進めるのは参加159大学中22校。本学は予選を通過したものの、本戦では18位に終わりました。

今年、杏林大学が関東学生医歯薬ブロック大会の主幹校です。好成績を残すことはもちろん、大会を成功させるため部員一丸となって努力して参ります。

(少林寺拳法部主将 / 医学部医学科2年 岡本暢之)

#### ● 杏林大学吹奏楽団

多くの方々に私たちの演奏を楽しんでいただきたい

杏林大学吹奏楽団は、保健学部、総合政策学部、外国語学部の1年生から3年生まで29名が所属しています。

楽器の経験年数は人それぞれで、10年以上続けている人もいれば、入団してから始めた人もいます。

活動は水・木・土の週3日ですが、大会や演奏会前は、毎日練習することもあります。昨年8月14日には江戸川区総合文化センターで開催された、東京都大学吹奏楽コンクールに出場しました。コンクール前は専属トレーナーの指導を受ける強化合宿も行いました。結果は銅賞でしたが、団員全員が音楽と向き合い、自分の限界にチャレンジしたことで、技術も精神力もアップしたと思います。夏休みの思い出の一つとなりました。

12月12日には昭島市民会館で第24回定期演奏会を開催しました。「仮面舞踏会」や、AKB48の「会いたかった」など13曲を演奏し、みなさま楽しんでいただきました。本番の舞台上、全員が一つになって演奏できた時の感動を思うと、夜遅くまで



行う辛い練習にも熱が入りました。この演奏会で、9名の4年生は卒団となりました。「楽しかった」という先輩の言葉に、演奏会の成功を改めて実感することができました。

入学式や卒業式、保護者会、野球部の公式戦での応援のほか、老人ホームや戸吹育成園でも演奏活動をしています。今年、八王子市議会での議場コンサートにも招待されました。聴いている方の顔が、とても近くに見えることは、貴重な体験です。これからもこのような機会を大切にしていきたいと思っています。

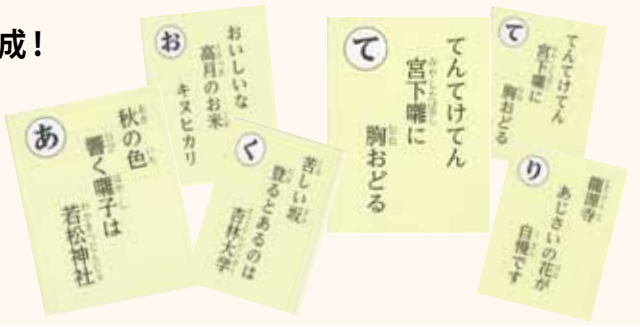
OB・OGの先輩方、日々支えてくれる先生方や保護者の存在も、私たちの励みです。たくさんの方に聴いていただければ、これからも練習に励んでいきたいと思えます。

(吹奏楽団団長 / 保健学部臨床検査技術学科3年 松島彩夏)



#### かすみ 「加住地域かるた」完成!

総合政策学部進邦ゼミ生が八王子キャンパスのある加住地域の名所や行事を題材に、八王子市立加住小中学校中学部の生徒たちと一緒に作った「かるた」が2011年2月に完成しました。



#### 数字で見る杏林大学 ⑤

# 65万3745人

これは、杏林大学医学部附属病院が平成21年度に受け入れた外来患者さんの延人数です。そのうち、37,250人(5.7%)は救急外来の受け入れでした。附属病院は平成6年に高度な医療の提供・高度な医療技術の開発・医療研修を行う特定機能病院の承認を受け、東京多摩地域の中核的な医療機関の役割を果たしています。高度救命救急センターにも認定されています。

東京多摩地域からの外来患者数は、1年間に494,381人で外来延人数の75.6%にあたり、地域の中核病院として機能していることが数字の上からも窺えます。例えば、附属病院のある三鷹市からは162,317人(24.8%)、隣接する調布市からは99,931人(15.3%)と地域医療協力が密接に行われているといえます。東京都23区からは127,261人(19.5%)、埼玉県・神奈川県・千葉県は合計24,147人(3.7%)、遠くは北海道の261人、沖縄県の95人となっています。

受診者を年齢別で見ると、70代と60代の高齢者の方がそれぞれ143,941人(22.0%)、123,361人(18.9%)と多く、次いで50代、40代の壮年者の方がそれぞれ77,285人(11.8%)、71,199人(10.9%)でした。一方、0～9歳も35,341人(5.4%)と子どもたちの受け入れもかなりの数に上っています。

人間性豊かな医療従事者を育成しつつ、高度先進医療の遂行と地域医療への貢献を積極的に行っていくことが、杏林大学医学部附属病院の使命です。



## 金田一 教授の研究室から ⑤

金田一秀穂 (きんだいち ひでほ) : 1953年東京生まれ。東京外国語大学大学院修了。中国大連外語学院、米イェール大学、コロンビア大学などで日本語講師。1988年より杏林大学外国語学部で教鞭をとる。



### チップス先生さようなら

学年末になって、四年生たちが卒業していく季節。今年は就職氷河期。毎年そのように言われるけれど、今年は確かに20年以上大学にいて、最も厳しいのではないと思う。それでも彼らは思い思いに大学を出て、ある者は会社へ、ある者はフリーターに、またある者は大学院へと散って行く。今まで彼らと過ごした時間が終わる。四月になればまた新しい顔が現れる。それはまた楽しみでもあるが、しかし、数年にせよ、卒業生たちと培ってきた関係が、式をさかいにこれで終わってしまうというのは寂しいことだ。

「チップス先生さようなら」という小説がある。イギリスの私立小学校を舞台にした短編で、二度も映画になったから、それを見たという人も多いかもしれない。私はとても不思議な題名だと思っていた。なぜ「さようなら」なのか、どうして「こんにちは」ではないのか、わからなかった。

あるとき、この季節、はっきりと分かった。あれは「こんにちは」ではいけなかったのだ。「さようなら」でなければいけなかったのだ。

卒業生たちは私に「さようなら」を言って出て行く。わたしも彼らに「さようなら」を言う。それでなければいけない。いつまでも「さようなら」を言えないようでは困る。彼らの「さよ

うなら」は、これから社会に出て行く喜びの言葉である。教師の「さようなら」は彼らの門出を祝う祝福の言葉である。「さようなら」を言うのは、悲しむべきことではなく、むしろ喜ぶべきことなのだ。「さようなら」と言ってくれる子どもたちは、教師にとっては、ありがたいことなのだ。

彼らは私の研究室を去っていく。私は取り残される。彼らにはいずれにせよ、新しい世界が待っているだろう。どのような出会いがあり、どのような世界を見ることが出来るのか、新しい空間と新しい時間。それはとても刺激的であり、学生時代のことなど忘れてしまうような日々であるだろう。

しかし教師には、場所も時間も変わらない。そこには彼らが不在であることを感じさせる研究室だけが残ってしまふ。見送られる人よりも、見送る人のほうが寂しさを感じてしまう。相手が去って、もういない空間や時間を生きていかなければならない。見送られた側は、新しい空間と時間で、過去を思い出す暇のない生活を過ごすことになる。

教師は「さようなら」を喜んで言えなければいけない。因果な仕事でもある。



#### 健康ひとくちメモ ⑤

### 戸惑える日本人の遺伝子

話題となっているメタボリックシンドローム、肥満、そして糖尿病などの「生活習慣病」を有する人達の増加の勢いが止まりません。どうしてなのでしょう?

そもそも日本人の食生活は欧米とは異なり、農耕民族として穀物や野菜、そして魚介類が食事の中心でした。その中で体質に合った「和食」が創作されました。一方で日本人には、先祖伝来の遺伝子のなかにインスリン分泌能が弱い性格が組み込まれています。そしてわずかな肥満が存在するだけですぐに糖尿病を発症してしまいます。

日本の開国そして文明開化後のこのわずか100年余りの間で、私達をとりまく生活環境は激しく変化しました。すなわち食生活の欧米化や交通手段の発達による運動不足が、日本人の肥満を助長させました。その結果、遺伝子の中にすでに組み込まれている弱いインスリン分泌能がこれらの変化に追いついて行くことが出来ず、まさに「遺伝子が戸惑っている」状況なのです。一昨年の推計では、糖尿病の患者数はすでに約900万人となり、その一歩手前の人々(約1300万人)と合わせると、

#### ● 印は世界糖尿病デー(11/14)のシンボルマーク「ブルーサークル」

わが国の実に約6人に1人が治療もしくは予防の対象となっているのが現状です。

この戸惑える遺伝子に、私達自身が早く救いの手を差し伸べなければいけません。では一体どうすれば良いのでしょうか?

ここで少し発想の転換をしてみましょう。先程、日本人はわずかな肥満を生じるだけで糖尿病をすぐに発症してしまうと述べました。ということは、食事や運動などの生活習慣の改善でインスリンに対する感受性が少しでも回復すれば、糖尿病にならずに済む人も多いことを意味しています。

また病気が早期発見が第一です。積極的に定期健康診断を受け、そしてときには食後で良いですから血糖値や尿糖の有無を調べてみましょう。

どうか大切な「日本人の遺伝子」が戸惑うことがないように、早速今日から生活習慣の見直しをお願い致します。

(石田均 : 杏林大学医学部教授 糖尿病・内分泌・代謝内科)

いしだひとし 昭和28年富山県生まれ。昭和53年京都大学医学部卒業後、大学院を経てカリフォルニア大学リバーサイド校生化学教室に留学。帰国後、京都大学医学部 助教授、平成10年 杏林大学医学部教授、平成18年-19年副院長。現在に至る。日本糖尿病学会理事、日本臨床栄養学会理事、日本糖尿病学会「食品交換表」編集委員会委員長、平成22年度-23年度日本栄養・食糧学会会長を務める。

#### 2011年度

### 大学行事・イベント (4月~11月)

4月3日(日)	入学式(春学期)	8月6日(土)~	夏季休暇
4月5日(火)	授業開始	9月20日(火)	授業開始
6月上旬	杏会総会 (保健・総合・外国語学部保護者会)	10月8日(土)、9日(日)	杏園祭(八王子キャンパス学園祭)
		10月8日(土)	杏祭(三鷹キャンパス学園祭)
7月25日(月)	授業終了	11月11日(金)	創立記念日(休校)

\*医学部の授業開始・終了、夏季休暇はこれとは別です

編集を終えて

- 海外に27ある杏林大学の協定校は多岐にわたり、広がりをもっています。このリソースが学生の皆さんにさらに活用されることを願って本号トップを企画し、坂本ロビン教授と各学部の学生・卒業生の皆さんにご登壇いただきました。(有)
- 今、「紙」か「電子」かで書籍、新聞が揺れています。ところが、杏林大学新聞は「紙も電子も」であり、電子版はホームページで創刊号から読めるようになってきました。本号トップの留学特集は跡見学長のご提案によるものです。じつはこの新聞は、企画・取材・記事作成・割付・整理・校閲、そして組版作成までのすべてを編集委員会(学長および教職員代表)と広報・企画調査室が「手づくり」で行っています。どこの大学新聞にも負けない高いクオリティの紙面にすべく毎回奮闘しております。(木)
- 先日等編集部をチャタリング部の学生が訪ねてきました。「大学新聞で私たちの部を紹介してください」とおっしゃってくださり、ありがとうございました。(酒)
- 写真の件ではいろいろな方々にお世話になりました。特に外国語学部倉林秀男先生にはご尽力いただきました。(お)
- 杏林大学新聞に関するみなさまの声を聞かせてください。